

令和 5 年 6 月 29 日現在

機関番号：12603

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2022

課題番号：17K02002

研究課題名(和文) 東アフリカ都市におけるエリート・シングルとハウスガールの「同居家族」の研究

研究課題名(英文) A Study of 'cohabitat family' by elite single and house girl in the East African cities

研究代表者

椎野 若菜 (Shiino, Wakana)

東京外国語大学・アジア・アフリカ言語文化研究所・准教授

研究者番号：20431968

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、東アフリカの新興中産階級のエリート・シングル女性と、その家庭に同居し家事・育児を支える下層(労働者)階級のハウスガールとの関係を日常レベルから調査分析するものであった。両者はいわゆる「母中心家族」を築くようになっていく。エリート女性は結婚せずともハウルガールと同居することで、伝統的「母」の担う領野を分担・共有することができるため、母でありつつキャリアを積むことが可能となっている。ただ国全体の高学歴化とシングルマザーの増加に反映し、2000年頃からエリート女性とハウスガールの女性の関係性も長期的で情緒的關係から、短期のビジネス的關係に変化してきていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

アフリカ近代都市における「同居家族」は、同社会の近代化過程で多くの変形家族を生み出しているが、エリート・シングルマザーと労働者階級のシングルマザーによる「母中心同居家族matrifocal family」の出現は、植民地以降に土地の相続の在り方を通じ強化された排他的父系社会における女性の自立を可能とするものとなった。村落から都市への移動の波、ジェンダー化された家事労働、2000年以降の初等教育無償化、性教育の不在とシングルマザーの増加、といった事項を背景に女性のライフコース選択や結婚の意味が変化するなかで、とりわけ父系男系社会構造をゆるがすファクターとなっている。

研究成果の概要(英文)：This study investigated and analysed the relationship between elite single women from the emerging middle class in East Africa and lower (working) class housegirls who live with their families and support them with housework and childcare from a daily level. Both have come to establish the so-called 'mother-centred family'. By living together with housegirls, elite women can share the responsibilities of the traditional 'mother' without having to marry, thus enabling them to pursue their careers while still being mothers. However, it is clear that the relationship between elite women and housegirl women has been changing from a long-term, emotional relationship to a short-term business relationship since around 2000, reflecting the country's overall increase in higher education and single motherhood.

研究分野：社会人類学、アフリカ研究

キーワード：ハウスガール シングルマザー 父系社会 母中心家族 東アフリカ 女性のライフコース 結婚 高学歴化

1. 研究開始当初の背景

東アフリカのケニア、ウガンダにおける父系社会では、古典人類学の諸民族誌が示すように、皆婚社会であることが前提として社会構造が存在してきた。女性は結婚適齢期の10代半ばになれば婚出し、嫁ぎ先では男子を産み、夫方の父系クランの存続に寄与することが当然のことと期待され、女性が夫をもたずシングルで生きるという選択肢は伝統的には殆どなかった。婚前妊娠すると好条件の結婚はできず、子どもも差別された。だが本研究代表者がケニア西部の村落で調査を開始した1990年半ばごろには、様々な価値観のグローバル化も影響し少しずつシングルマザーが見られ始め、村落社会はその対処に戸惑い始めていた。子どもを両親や近親のもとに置き新たに嫁ぐか、村を出て出稼ぎをするか、また2000年頃には子連れ結婚も稀に観察され出すようになった。

また東アフリカ首都の大型スラムには、全国各地の村落社会より様々な理由で出てきた、あるいは出稼ぎ先の都市で夫を亡くした等のシングル女性が少なからず、メイド、掃除人、料理人、洗濯婦、インフォーマルセクターでの小ビジネス、性産業等に従事し生活している。他方で、エリートの女性シングルも都市には存在する。アフリカ社会の伝統的な男女の主従関係を基にするジェンダー観が家庭内の男女の間で大きく影響し、弁護士、医師、国会議員他で公的な場で活躍し自立するエリート女性の殆どは恋人や夫と安定した関係性が築けず、シングルである場合が多い。だがエリートであること自体が近代社会での成功者であるので、彼女たちの日常生活の状況、抱える問題等について調査されたことは殆どなく詳細は明らかでない。そこで、アフリカのエリート女性は、シングルでどのような家庭をもっているのか？という疑問が生じたのである。

2. 研究の目的

本研究の目的は、東アフリカの新興中産階級のエリート・シングル女性と、その家庭に同居し家事・育児を支える下層(労働者)階級のハウスガールとの関係を日常レベルから調査分析することである。アフリカ近代都市における「同居家族」は、同社会近代化過程で多くの変形家族を生み出し、近年加速する階層分化の中で増加した階層の異なるアフリカ人エリート・シングルマザーと、アフリカ人ハウスガールとの同居家族が多数出現している。この新たな同居家族を、欠損ある「母中心家庭」としてのエリート・シングルマザー家庭と措定し、民族誌的調査を通し家事・育児という伝統的「母」の担う領野を双方が分担・共有する日常を描出し、その中で伝統・近代的社会規範、ジェンダー規範等の如何なる葛藤・交渉や創造があるのか、新世代の結婚・ジェンダー観にどのような影響を与えうるかを探ることを目的とした。

3. 研究の方法

近年の急速な経済成長の過程で現出した経済格差の二分化のなかで、エリート女性、ハウスガールという二つの階級の女性の直面している問題をそれぞれ同定するなかで、セクシュアリティ・ジェンダー観の社会的動態を明らかにする。その上で彼女たちの聞き取り・観察から両者の関係性、地方と都市をまたぐ現在の「同居家族」の形態、出稼ぎハウスガールとエリート女性のライフコースのモデル構築をケニアとウガンダの歴史的、政治的経緯

を鑑み比較検討しながら試みる。以上の研究方法は、現地でのフィールドワーク、そして同世代のアフリカ人研究者と連携し共同調査を実施、国際的に発信することに重きをおいた。

4. 研究成果

本課題の全体的な研究成果としては、「ハウスガール」になる人びとの契機がその育った背景にもよるが 80～90 年代と、小学校無償化が始まった 2000 年代以降に変化が見られることが明らかになった点である。ハウスガールになる人びとのイメージは下流階層、小学校卒の低学歴がステレオタイプであったが、セカンダリーやカレッジ中退、卒業など高学歴化し、自らの学費のために一時的に従事する者が出るなど、変化してきている。近年の教育熱の向上からハウスガールとして働くシングルマザーの教育費負担が大きくなり、子の大学やカレッジの学費、さらには就職先のない無職の高学歴の子を抱えるシングルマザーの困難な事態がみられ、自らの老後の居場所もないままに娘がシングルマザーになるケースもあった。この点は、今後の調査研究の展開に重要である。

課題延長期間中には全世界がコロナ禍を経験し、アフリカにおける経済的打撃の経験は、これまでは「ハウスガール」にならなかった層が国内で経験のないまま国外、とりわけ中東にむけて「ハウスガール」として出向するという事態に大きく変化した。コロナ以前からの本研究を土台に、そのダイナミズムを今後も捉えていくべき課題もみえた。

くわえて本研究は 2017-04-01 に開始したものの、代表者が 2018 年に出産、さらに 2020 年からは新型コロナウイルス蔓延の影響を受け、現地調査が行なえず予定が 2023-03-31 にまでずれ込んだ。しかし、コロナ禍で導入されたオンラインシステムを活用し、もともと計画していたアフリカ人研究者との連携、国際的発信という点では下記のように、予定以上の成果をあげることができた。

●2017 年 11 月 4 - 5 日に International symposium "Family Transformation in Rapidly Developing Asia-Africa Societies Faced with Economic Disparity, Urbanization and War" と題し国際シンポジウムを開催し、アフリカにおける家族の形態の変化、という大きな文脈からハウスガールとエリート家庭の事例を議論を試みた。

●2018 年 7 月 16 - 20 日開催の国際人類学・民族学科学連合研究大会 (IUAES) に代表者は "Diversification and reorganization of 'family' and kinship in Africa" と題した Open panel をマケレレ大学の Chirs Opesen 講師と共に convenors となり応募、承認された。

●2019 年度は、本課題の研究協力者らと、ポーランドのポズナンにある Adam Mickiewicz University にて 8 月に開催された国際人類学民族学連合 (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences, IUAES) にてオープンパネル 'Ethnographic Encounters on African Youth and Families: Norms Education, Employment, and Marginalization' を研究協力者であるマケレレ大学教授 Peter Atekyereza に共同コンピーナーとなっただき組織し、協力者である Ian Karusigarira はディスカッサントとなった。本課題代表者は、趣旨と個人発表 'The Maid-Elite Women Nexus: Strategies and Survival in Kenya and Uganda' を行った。発表では、社会問題となって久しい、就学中にシングルマザーになる何のキャリアもない女性が、子どものために生活の糧を得るための

手立てとして出稼ぎにくる場合、自己実現を夢見る若い女性の生活の手立てとしての「ハウスガール」という職業、子どもを大学に行かせることに成功した「ハウスガール」の事例等をもとに、この職業の在り方が変化しているさまを発表した。Atekyereza 氏の'Education and Gendered Marginalization of the Youth Employment in Rural Uganda'の発表により、アフリカの若者の教育、就職等の置かれた状況から「ハウスガール」や高学歴女性などの変化の位置づけも明らかになった

●2020年11月、国際シンポジウムをオンラインに切り替え開催した。タイトルは ILCAA International Zoom Symposium: How Are Young People in Africa Thinking and Living? : Education, Unemployment, Aesthetics, Politics, and Singleness である。開催プログラム詳細は次のウェブサイトに掲載されている (<https://www.aajoint.live-on.net/en/2020/11/youthsympo/>)。より多く国内外の参加者にもきていただき、本研究課題の大きなテーマである「ハウスガール/ハウスメイド」についての研究発表を行い、アフリカや欧州の研究者より、有意義なコメントをいただくことができた。ウガンダ・マケレレ大学に協力いただき博士課程の学生にも参加があり、年度末に成果を刊行する際に査読を行い、認められアフリカの若手研究者支援にもなった ('*Youth in Struggles: Unemployment, Politics, and Cultures in Contemporary Africa*', edited by Wakana SHIINO and Ian KARUSIGARIRA. Tokyo: Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa(ILCAA),Tokyo University of Foreign Studies(TUFS))

● 2021年8月には、本課題の地域別協力者であるマケレレ大学の Christine Mbabazi 氏と共に Contemporary Gender and Sexuality in Africa と題した論集を Langa RPCID より出版。

●2021年9月～2023年2月にはナイロビ大学から研究協力者である Tom Ondicho 准教授を所属先の研究所に共同研究者として招へいし、本課題の「ハウスガール」に多いシングルマザー、性觀念の変化、性教育について議論し、2023年1月末に開催した**国際シンポジウム「現代アフリカにおけるセクシュアリティ：伝統、教育、そして実践」**ではその一部を発表することができた。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 0件／うち国際共著 2件／うちオープンアクセス 2件）

1. 著者名 Wakana Shiino	4. 巻 7
2. 論文標題 'Introduction, Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach'	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 African Potentials: Convivial Perspectives for the Future of Humanity, Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach	6. 最初と最後の頁 1-33
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 Wakana Shiino	4. 巻 7
2. 論文標題 Changes in the Traditional Social System of Polygyny: Kenya's Independence to the Present	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 African Potentials: Convivial Perspectives for the Future of Humanity, Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach	6. 最初と最後の頁 57-89
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1. 著者名 椎野若菜	4. 巻 24
2. 論文標題 フィールドワークと安全対策の問題点 大学院生以上の場合	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Quadrante	6. 最初と最後の頁 97-102
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 椎野若菜	4. 巻 24
2. 論文標題 シンポジウム「これだけは知っておこう 留学／フィールドワークのリスクマネジメント」開催にあたって	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Quadrante	6. 最初と最後の頁 89-92
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 椎野若菜	4. 巻 65
2. 論文標題 「フィールドワーカーの留守番家族が考える安全対策とは コロナ禍のウガンダ国空港閉鎖の経験」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 月刊 地理	6. 最初と最後の頁 44-51
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計18件 (うち招待講演 5件 / うち国際学会 5件)

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「日本文化人類学会の男女共同参画の歴史・現状：ジェンダー比をみることから」
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「子育てとフィールドワークの両立という観点から、子育てフィールドワーカーが直面する困難」
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 FENICS × 文化人類学会 × GEAHSS 共催シンポジウム「人類学者の心地よいライフワークバランスを考えるために：文化人類学会の現状を知ることから」
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「アフリカの男女学生の性・生理の知識 ケニア・ウガンダでの調査から」
3. 学会等名 民博共同研究「月経をめぐる国際開発の影響の比較研究 ジェンダーおよび医療化の視点から」
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「留学・フィールドワーク推奨、そして安全対策の問題点－大学院の場合」
3. 学会等名 TUFS ジェンダー・フェミニズム研究 連続シンポジウム
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「趣旨説明」分科会「時流にあわせ「フィールドワーカーの安全対策」について考え備えるには」
3. 学会等名 日本文化人類学会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「東アフリカにおける月経観と月経にかんする教育事情：ケニア・ウガンダ」
3. 学会等名 JICA月経衛生対処勉強会（招待講演）
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「総括」第1回テーマ：学生が現地であう性被害
3. 学会等名 FENICS共催サロン「女性・若手研究者がフィールドで直面するハラスメント」
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Wakana Shiino
2. 発表標題 'House Girl's Life Plan in Nairobi: Reality and Dream'
3. 学会等名 ILCAA International Zoom Symposium: 'How Are Young People in Africa Thinking and Living? : Education, Unemployment, Aesthetics, Politics, and Singleness' (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「乳幼児とともに国際集会を開く」
3. 学会等名 H28年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)ダイバーシティセミナー・国際共同研究交流会(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 研究プロジェクトや学会活動への若手・女性の参加促進の工夫
3. 学会等名 人文社会科学系学協会男女共同参画推進連絡会(ギース)公開シンポジウム(招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Wakana Shiino
2. 発表標題 'The Maid-Elite Women Nexus: Strategies and Survival in Kenya and Uganda', at Adam Mickiewicz University in Poznan, Poland, August 2019
3. 学会等名 Congress of International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「東アフリカにおける月経観と 月経にかんする教育事情 : ケニアとウガンダの事例から」分科会「グローバル化時代に月経はどう観られるのか ケガレ・禁忌・羞恥心」(分科会代表者・杉田 映理)
3. 学会等名 第53回研究大会文化人類学会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 「ケニアにおける「妻相続」慣習の言説とフィールドで見る現実のはざままで」
3. 学会等名 桐朋女子高等学校授業(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 椎野若菜
2. 発表標題 アフリカの生/性について、文化人類学と写真表現
3. 学会等名 アラカワ・アフリカ × FENICS 公開講座(招待講演)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Wakana Shiino
2. 発表標題 The House girl by choice or the circumstances in Kenya and Uganda
3. 学会等名 International Symposium on "African Potentials and the Future of Humanity" at Kyoto University (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Wakana SHIINO
2. 発表標題 "Family' Circumstances Supported by House Girl in Nairobi"
3. 学会等名 International symposium "Family Transformation in Rapidly Developing Asia-Africa Societies Faced with Economic Disparity, Urbanization and War" (国際学会)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 Wakana SHIINO
2. 発表標題 'House girl and 'family' in Nairobi '
3. 学会等名 Uganda-Japan Bilateral Joint Research Project, The Study meeting for JSPS Uganda-Japan Bilateral Joint Research Project : Diversification and Reorganization of 'Family' in Uganda (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 Wakana Shiino, Christine Mbabazi Mpyangu eds.	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Langaa RPCIG	5. 総ページ数 364
3. 書名 Contemporary Gender and Sexuality in Africa: African-Japanese Anthropological Approach	

1. 著者名 増田研・椎野若菜編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 220
3. 書名 『現場で育むフィールドワーク教育（FENICS 100万人のフィールドワーカー4）』	

1. 著者名 Wakana Shiino, Ian Karusigarira	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa(ILCAA),Tokyo University of Foreign Studies(TUFS)	5. 総ページ数 250
3. 書名 'Youth in Struggles: Unemployment, Politics, Cultures in Contemporary Africa', edited by Wakana SHIINO and Ian KARUSIGARIRA.	

1. 著者名 澤柿教伸、野中健一、椎野若菜	4. 発行年 2020年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 188
3. 書名 フィールドワークの安全対策（FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ9）	

1. 著者名 白石壮一郎・椎野若菜	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 216
3. 書名 『社会問題と出会う（FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ 7）』	

1. 著者名 椎野 若菜、福井 幸太郎	4. 発行年 2017年
2. 出版社 古今書院	5. 総ページ数 190
3. 書名 マスメディアとフィールドワーカー (FENICS 100万人のフィールドワーカーシリーズ6)	

1. 著者名 Wakana SHIINO, Soichiro SHIRAISHI & Christine M. MPYANGU	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Research Institute for Languages and Cultures of Asia and Africa Tokyo University of Foreign Studies	5. 総ページ数 169
3. 書名 Diversification and Reorganization of 'Family' in Uganda and Kenya:A Cross-cultural Analysis	

〔産業財産権〕

〔その他〕

East African-Japanese Researcher's Network https://www.aajoint.live-on.net/en/

6. 研究組織			
	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	カルシガリラ イアン (Karusigaria Ian)		

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	ピーター アテケレザ (Peter Atekyeleza)		
研究協力者	トム オンディチヨ (Tom Ondicho)		
研究協力者	クリスティン ムピヤング (Christine Mpyangu)		

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計3件

国際研究集会 Global Youth Dynamics and ‘ reality ’ negotiation in Eastern Africa	開催年 2021年～2022年
国際研究集会 Congress of International Union of Anthropological and Ethnological Sciences (IUAES), at Adam Mickiewicz University in Poznan, Poland	開催年 2019年～2019年
国際研究集会 The Study meeting for JSPS Uganda-Japan Bilateral Joint Research Project : Diversification and Reorganization of ‘ Family ’ in Uganda	開催年 2017年～2017年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関